

(参考) 令和2年度交通運輸技術開発推進制度 継続課題の概要

本年度の継続課題については、昨年度末に開催した外部有識者により構成された委員会で評価を実施し、継続を決定した。

<平成30年度採択課題（計2件）>

課題名	人工知能をコア技術とする内航船の操船支援システム開発
研究実施者 (※は代表者)	神戸大学 ^(※) 、(株)MTI、(株)日本海洋科学
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 衝突回避機能を有するAIを活用し、輻輳海域を航行する内航船の操船支援を行うシステムを開発する。 ○ これにより、ヒューマンエラーに起因する海難事故の防止や船員の労働環境の改善等を図る。

課題名	機械化技術の採用による点呼の精度向上の研究
研究実施者 (※は代表者)	(株)日通総合研究所 ^(※) 、日本通運(株)
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道路運送事業において、ビッグデータを活用し、運行管理者による点呼業務を補助する自動点呼機を開発する。 ○ これにより、点呼業務における運行管理者の負担の軽減やヒューマンエラーの防止等を図る。

<令和元年度採択課題（計1件）>

課題名	大規模災害時における海上・航空輸送に関わるボトルネック解析 ～マルチエージェントシステムによるシミュレータの開発～
研究実施者	(国研)海上・港湾・航空技術研究所
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模災害発生時の救助・救援活動における陸・海・空が連携した輸送についてAI技術を用いた検証可能なシミュレータを開発する。 ○ シミュレーションにより、事前に救助・救援活動時の輸送の課題点を整理することで、適確な防災計画策定等に寄与する。